

札幌市立北の沢小学校の取組【読書：図書館モデル公開授業】

1. 研究のねらい

研究テーマ

「公立図書館と連携した読書活動および言語活動の充実と学び方の育成」

- 図書館モデル公開授業研究とその実践を通じ、公立図書館の効果的な活用と本に親しむ活動の充実を図る。
- 日常における言語活動の基礎基本育成の取組（本校の特色ある学習活動の時間「国語の基礎タイム」の取組）と連携し、豊かな読書活動に向けて「絵本」を窓口にした研究実践を推進し、コミュニケーションスキルの向上を図る。
- 絵本や紙芝居の読み聞かせ活動や本のしおりづくり等、表現・体験活動を効果的に組み合わせる中で、日常的に本に親しむ心を育てる。
- 読書活動の充実に向けた効果的な教育機器の活用や活動の在り方を探る。

2. 取組内容

(1) 中央図書館訪問 1 回目の活動（12 月 3 日）

2 学年生活科「としょかんをたいけん」

- ◇図書館の地図や本の分類について調べる言語活動を通して、自分の読みたい本を探すことができる。
- ◇中央図書館の見学を通して、施設や機能の特色に気付く。

①【活動 1】「図書館のひみつをさぐる」

- 「子どもの森」の主要な分類棚の配置状況や環境構成、展示等の工夫や表示物、付属設備などをグループで探し、図書館地図に記録する活動を通して「図書館」の様々な工夫を知る。
- 各自が発見したことや気付いたことを全体で交流する活動。
* 学校図書館との共通点や相違点 ・職員の方々への質問

②【活動 2】「図書館を楽しく利用しよう」

- 図書を 3 冊選び、貸出を受ける。
* 絵本 1 冊、ものづくりや遊びに関する本 1 冊（国語の説明文および表現単元：「おもちゃのつくり方」の学習と関連させる）、自分の興味に基づく本 1 冊

③【活動 3】「私のしおり作り」

- 大きな図書館で学んだ感想や印象、読書の楽しみに関わる思いを短いフレーズにしてしおりに表す活動を設定し、できたしおりをその場で活用することで、楽しく読書活動に取り組む。
* 今回はラミネーターを図書館に持参し、授業会場（童話の部屋）でしおりを完成させた。



(1) 中央図書館訪問 2 回目の活動 (12 月 10 日)

2 学年国語「絵本の世界を楽しもう」

◇絵本の読み聞かせ活動を通じて、読み手と聞き手相互の立場で読書活動を楽しむ。

①【活動 1 - 1】

- 中央図書館にある大型絵本 (超大型絵本含む) から、読み聞かせをしたい本をグループで選ぶ。
- グループで工夫しながら読み聞かせの練習を進める。
 - ・声の大きさや抑揚・リズム
 - ・登場人物等役割の分担
 - ・地の文と会話部分の分担
 - ・一緒に読む部分、個で読む部分
 - ・ページめくりのタイミング…等を考えながら。
- 大型絵本の読み聞かせ体験 (前半)
 - ・前半 3 グループの読み聞かせ披露 (5 分程度 × 3 グループ)



- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">* 聞き手を意識しながら* 聞き手の反応を感じ合いながら* 読む楽しさを感じ合いながら |
|---|



②【活動 2】「図書館をどんどん利用しよう」

- 図書を 3 冊選び、貸出を受ける。
(今回は絵本 1 冊、自分の興味に基づく本 2 冊)

③【活動 1 - 2】

- 大型絵本の読み聞かせ体験 (後半)
 - ・後半 3 グループの読み聞かせ披露 (5 分程度 × 3 グループ)

④【活動 3】北の沢小学校図書ボランティア (保護者) による「本の世界を広げる活動」

- 折り紙絵本 (折り紙サンタ) の紹介～一緒に折り紙活動～掲示・作品交流

3. 成果と課題

(1) 成果

◇複数回訪問する機会をもつことにより、下記のような様々な教育的効果をもたらした。

- ① 1 回目の訪問で、中央図書館のよさを「知る」「探す」体験をした児童は、2 回目の訪問では、前回の活動から得た自信を基に「楽しみ」ながら「活用する」活動に十分にひたることができた。絵本の他、紙芝居や子ども新聞に関心を広げる姿もあった。
- ② 中央図書館ならではの蔵書 (大型絵本) を学習活動に効果的に生かすことができた。また、市民も日常的に利用する図書館の雰囲気は子どもの自立心の高まりを促した。

(2) 課題

◇今回、貸出期間の間隔 (2 週間) に合わせて活動を設定したが、間隔についてはねらいを踏まえて、夏と秋、夏と冬のように季節感を考慮することも効果的と考えられる。